

## 〔現状と課題〕

■ブロック内には種々様々な会員が在籍しており、一人ひとりの特徴ある個性を散発的に動かすのではなく、個々人が重要なセクションとして相互に調和のとれた組織を形成し、個人と集団の力を最大限に発揮する必要があります。

## 〔目的〕

■全ての会員が切磋琢磨し、共に学び、共に成長することで、組織全体のキャパシティが拡大します。続いて、キャパシティが拡大した組織から個人が刺激を受け、再び成長します。この相乗作用から発する持続的成長を地域に還元し、明るい豊かな社会を実現します。

## 〔事業内容〕

## ■運動1

会員の資質向上につながる研修の実施（プロ連）（事業／推進）

## 1) 実施に至る背景：

各会員においてJ Cへの理解度のみならず、能力、性向、人格に差異があり、共同してJ C活動を行う上での資質の底上げ及び極大化が必要となります。

## 2) 目的：

会員の資質を向上し、成長に繋げることで、J C運動の更なる飛躍に貢献します。

## 3) 事業内容：

県内9 L O Mに対し、会員及びL O Mの現状を調査し、研修ニーズを分析した上で、必要な講師をお招きし、研修を執り行います。

## 4) 実施期間： 2回（6月、10月）

5) K G I： 参加者へのアンケート調査により理解度を70%  
会員が社会的要請のある能力を取得、向上させることをゴールとします。

## 6) 得られる効果：

地域の先導者としてのリーダーシップが養成され、会員がより良いJ C活動を行うための原資となります。転じて、長期的に地域社会の持続的発展の契機となります。

## 7) パートナー： J C I日本 理念共感拡大会議、J C I日本公認トレーナー

## ■運動2

ブロックアカデミー事業の実施（事業）

1) 実施に至る背景：

近年、奈良ブロック内の各L O Mにおいて会員拡大活動に取り組む中で、入会年数の浅い会員が増加しており、会員間でJ Cへの理解、知識において深厚浅薄のばらつきが生じています。

2) 目的：

全ての会員を対象としてJ Cへの理解を深めてもらうことで、J C活動における個人及び組織への自信と自覚が生まれます。

3) 事業内容：

全てのを対象とした、J C会員としての理解を深める事業とします。

4) 実施期間： 2回（2月、9月）

5) K G I： 参加者へのアンケート調査により理解度を70%  
会員がJ Cへの理解を向上させることをゴールとします。

6) 得られる効果：

多種多様な個性を持った各会員がJ Cの基本をもう一度見直し、発展的視野を新たに持ちつつ、個性が調和した組織を形成することで、新たな次元でのJ C運動へと進展します。

7) パートナー： J C I 日本、近畿地区協議会、近畿地区内ブロック協議会

## ■運動3

9 L O Mサミットの実施（プロ連）（事業）

1) 実施に至る背景：

各L O Mテリトリー内固有の地域及びL O M組織の課題を、L O M間で相互共有する機会が限定的であり、情報の非対称性を原因として非効率的なJ C活動になっている潜在リスクがあります。

2) 目的：

L O M間で地域及びL O M組織の課題や対処に係る情報を共有することで、互いを評価をし、議論を交えることで、あるべきJ C活動を導き出します。

3) 事業内容：

各L O M役員に集合していただき、地域及びL O M組織の課題を議論していただき、より良い課題解決を見出すための一助とします。

4) 実施期間： 1月

5) K G I： 県内9 L O M役員へのアンケート調査により満足度を80%  
各L O Mにおける地域課題の解決の一助となることをゴールとします。

6) 得られる効果：

各地の課題を把握及び議論することで、各L O Mが個々に活動の効率化、高度化を図ります。そして、成果から得られたノウハウを奈良ブロック協議会が吸収することでL O M活動のサポートに活用できます。

7) パートナー： 県内9 L O M

## ■運動4

### 会頭公式訪問の実施（事業）

#### 1) 実施に至る背景：

J C I 日本会頭が県内へ来訪されるのを機に、奈良ブロック協議会管内会員及びL O MがJ C I 日本情報を積極的に得ることが可能です。

#### 2) 目的：

J C I 日本会頭が来訪する貴重な機会に、机上の資料では知り得ない考え、想いを直接拝聴し、あるべき姿を確認すると共に、会員のモチベーション向上及び組織の活性化の契機とします。

#### 3) 実施期間： 2月11日

#### 4) 事業内容：

J C I 日本会頭にJ C I 日本の理念及び2022年度活動方針を講演して頂きます。

#### 5) K G I： 参加者へのアンケート調査により理解度を90% 会員の意欲向上とL O Mの活性化をゴールとします。

#### 6) 得られる効果：

J C I 日本会頭の考え、想いを理解することでJ C I 日本の理念、方針と齟齬のない統一的な行動を執ることができ、J C 活動における全国基盤の重層で網羅的な地域貢献の手法を収得することができます。

#### 7) パートナー： J C I 日本